

むくどり通信

2015.January

1

No. 235



鳥ガールのTwitter好感度発信中！
<https://twitter.com/torigirlosaka>

特集 才才タ力

希少種指定解除の動きと課題



里山の王者 オオタカ



表紙の写真 オオタカ 成鳥♂ 2005.5.22 和泉市信太山

里山の生態系の頂点に立つ鳥。これまで和泉市内では、信太山や槇尾山などで最大6つがいの営巣が確認されてきたが、現在2つがいが消失、2014年に繁殖成功が確認できたのはわずか1つがいだった。

①スギの高木に架けられたオオタカの巣（和泉市内） ②オオタカ成鳥♂（和泉市内） ③オオタカ幼鳥（堺市内）
④獲物を追って森の上を飛ぶ成鳥♂（和泉市内） ⑤オオタカ成鳥♀（和泉市内） ⑥オオタカ巣立雛（堺市内）

写真・文 納家 仁

CONTENTS 2015.1 No.235

- 2 里山の王者 オオタカ
- 3 特集 オオタカ 希少種指定解除の動きと課題
- 4 対談 大阪のオオタカ 現状と保護の課題
- 8 シンポジウム「オオタカ 希少種解除の課題」報告
- 11 身近な鳥から鳥類学 第24回ムクドリのねぐら探し
- 12 幹事会報告 / 保護活動 南港野鳥園問題
- 13 大阪自然史フェスティバル2014報告
- 14 例会報告
- 17 例会の案内
- 20 次号予告 / 編集後記
- 21 レスキュー日誌 第18回 / 鳥類学講座案内
- 22 鳥信 こんな鳥観たよ ヒシクイ、ヘラサギ
- 24 新春お年玉クイズ / 叶内拓哉の野鳥撮影会

新年 明けましておめでとうございます

昨年10月の古の葛城路ではペアで飛翔するクマタカ、12月の湖北バスツアーでは獲物を運ぶオオワシなど、猛禽類の雄大な姿を楽しんだほか、7月の宇陀川ではヤマセミの乱舞、10月のバスツアーでは鍋田千拓のキジの雌と若鳥など、いろいろ観察することができました。

幼児や小学生はもちろん、現役で活躍中の若い世代、悠々自適のシニア、ハンディキャップのある方々とのすてきな出会いもありました。

新たな年もさまざまな野鳥との新しい出会い、また、野鳥の好きななかまととの新しい出会いが叶う1年でありますように。 日本野鳥の会大阪支部長 上村 賢

オオタカ 希少種指定解除の動きと課題

里山の生態系の頂点に立つ鳥として、

里山の環境保全のシンボルとして、開発の大きな抑止力となってきたオオタカ。

2006年の環境省第3次レッドリストでは個体数が増加傾向にあるとして、絶滅危惧Ⅱ類（VU）から準絶滅危惧種（NT）にランクダウン（2012年の第4次改訂でも準絶滅危惧種の評価）。

そして、2013年春から環境省は、オオタカの「国内希少野生生物種」の指定解除の検討を開始、早ければ今春にもその指定が解除される可能性が大きくなっている。

希少種指定の解除により法的な根拠が失われ、かろうじて守られてきたオオタカの生息環境が再び開発の危機にさらされること、また密猟や違法飼育が助長されることなども危惧されている。

そこで、大阪府のオオタカ検討委員会等の委員として保護問題に関わってこられた小海途銀次郎さんと橋本正弘さんに府内のオオタカの生息状況や保護活動の成果、これからの課題などについて、対談いただいた。

また、昨年10月に開催されたシンポジウム「オオタカ 希少種解除の課題」（日本野鳥の会・日本オオタカネットワーク共催）に参加された清水俊雄さんに、環境省の考え方や保護団体からの問題提議などについて報告いただいた。



オオタカが舞い、子育てする大阪の里山環境を守っていくために
私たちに今、何ができるのかを考えてみたい。



特集

小海途銀次郎×橋本正弘 対談 大阪のオオタカ 現状と保護の課題

環境省により希少野生生物種からの指定解除の方針が示されているオオタカ、大阪での生息状況や開発に伴う保全対策などに詳しい小海途銀次郎さんと橋本正弘さんに、指定解除の問題点や課題、これからの保護のあり方などについて意見を交わしていただきました。

オオタカは増えたか？・・・

橋 本 オオタカを希少野生生物種から指定解除しようという環境省の動きに正直ショックを受けていますが、今日はその話を踏まえ大阪府のオオタカの変遷や開発とオオタカの保護などについて改めて話しをしたいと思います。小海途さんは、これまで大阪府のオオタカ調査委員会などずっと一緒に活動してきましたね。環境省の指針である「猛禽類の保護の進め方」により泉州東部農道と農地整備の開発の際に設けられた「オオタカ調査検討委員会」に小海途さんと一緒に委員として加わったのが最初でしたね。開発予定地域ごとのアセス調査の報告を見ると次々とオオタカの巣が見つかりわくわくしましたね。

オオタカを守るという法的な根拠があってこそ、我々の出番があったわけですから、指定解除によって、大阪では今、減少傾向にあるオオタカが危機的な状況となることが心配されますね。

小海途 「大阪のオオタカの変遷」を振り返ることが必要ですね。私は、元々、大阪にオオタカはいなかったと思っています。夏期に生息をしていない、繁殖はしていなかったという意味です。私がタカに関心を持ったのは15歳のとき1959（S34）年です。その年初めてサシバの巣を見つけました。その後サシバに夢中になり次々と巣を見つけるとともにタカの仲間全体に興味を持ちました。四年後の1963（S38）年にハチクマの巣も見つけました。その頃サシバ、ハチクマ以外にトビも普通に繁殖していました。この三種のタカとオオタカの共通点は生息環境が同じ里山だということです。当時南河内の里山をタカの巣を探してまなく歩きましたがオオタカはまったく見ませんでした。オオタカはいなかったと言ってよいと思います。

大阪府で初めてオオタカの巣が見つかったのは1979（S54）年なんです。河内長野市でサシバの研究をされていた学生さんが偶然見つけられたそうです。その後1980年代に入ると夏期にもオオタカの姿を稀に見るようになりました。そして1990年代になると急にあちこちでオオタカの姿を見かけるようになりましたが、巣も見つかりだしま

した。反対にそれまで里山で普通に見られていたトビ、サシバ、ハチクマの姿が見られなくなっていました。トビ、サシバ、ハチクマと同じ里山でオオタカが入れ替わったのです。そして2000～2001年の調査でオオタカ48つがいの生息を確認することができました。

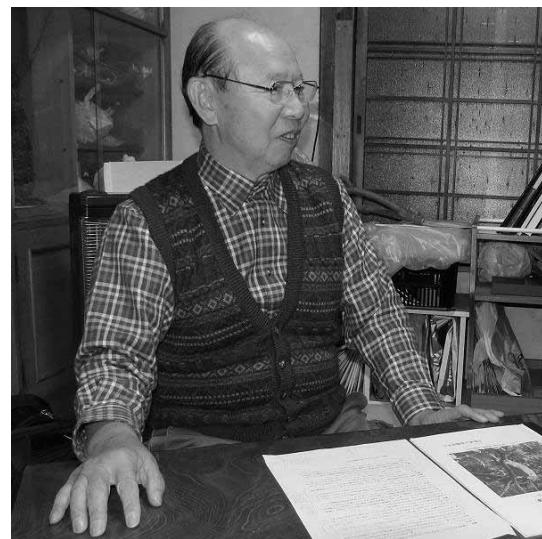
※大阪支部ホームページ、保護活動のサイト

「守ろうオオタカ 里山の自然」参照)

橋 本 この調査は営巣木の特定を行うなど、これまでにないものでしたね。やはり小海途さんら長くクマタカなどの猛禽類の営巣調査を行ってきたメンバーの協力が大きかったです。

都市公園などで冬期にオオタカが普通に見られることから、ずいぶん身近なタカになったとの印象はありますが、府内で繁殖しているつがい数は、当時ほどはいない、やはり減少しているのではないかと。

小海途 そうですね、その後さらに6つがいの生息を追加していますが、反対に24つがいが消滅しています。この事から大阪におけるオオタカの生息は2000～2001年頃がピークだったと私は思っています。大阪府のオオタカは今衰退傾向にあると思います。同じ精度の調査は行っていますが、私の感覚では当時からするつがい数は半減に近いのではないかと思います。



小海途銀次郎（こがいと ぎんじろう）さん

橋 本 水と緑の健康都市（箕面森町）や彩都では事業地からオオタカがいなくなりましたね。私はやはり開発が進み生態系が破壊されたことが原因していると考えますが、ほかに原因があるのでしょうか？

小海途 もちろん今まであった里山が開発され町や道路に変わったわけですからオオタカが棲みにくくなった事

に間違いはありません。しかし私はそれが全ての原因だとは思えません。なぜなら消滅した24つがいの大半が開発に関係なく、環境に何の変化もないのに消えているからです。もともと大阪府にはいなかった鳥ですから、たまたま大阪府の里山の住人であったトビ、サシバ、ハチクマがいなくなつて棲む場所ができ、それまで野鳥を主食にするタカがほとんどいない状態でしたから餌がふんだんにあり、それで一気に増えたもののやはり何かが合わず、初代、二代目あたりの寿命がつきた頃合いで徐々に減って来たという側面もあるのではと思っています。

オオタカの影響力・・・

小海途 1999年の「泉州東部農道と農地整備の開発」ですが、あれは指針である「猛禽類保護の進め方」が出された3年後のことでした。そして大阪府内ではじめて指針に沿って行われた開発工事で、それ以後の大阪府での「開発とオオタカ問題」での先例となりましたね。そして「オオタカ問題検討委員会」が持たれ橋本さんと私も参加することになりました。あの時、農地整備公団は「猛禽類保護の進め方」の内容を真摯に受け止められ忠実に実行されたと評価しています。また最初の試みであつたため行政、そしてマスコミの関心も高く、以降の「オオタカと開発問題」の良い手本となりましたね。



橋本正弘さん

橋 本 水と緑の健康都市の開発の際には、オオタカ調査委員会（オオタカ保全審議会の前身）の委員として提言やアドバイスを行ってきましたが、行政側は、よく意見を聞いてくれて、オオタカ保全区域を設けるなど、積極的な保護対策を実施してくれましたね。

でも、2008年以降オオタカが姿を消して、戻ってこない。

小海途 当時、オオタカの影響力は本当に大きかったで

すね。オオタカの存在が里山の環境を開発から守ったという意味で、大変意義深い事例ですね。我々も14年もの間、委員として関わってきたので、やはり思い入れがありますね。

橋 本 先日（11月25日）、オオタカの新たな保全方策についての提言を知事あてに行ったところですが、ここでは、生息環境調査の一定期間継続、従来の営巣環境の整備の継続、採餌環境・生息環境の一層の整備、オオタカ保全林周辺で工事を行う場合の配慮、地域の住民やNPO等の理解と協力、地域全体がオオタカとのより良き関係を構築するための施策を講じることなどを盛り込みました。ぜひ、提言が活かされ、オオタカがまた営巣する日が来てほしいのですね。

こういった提言もオオタカが法的に守るべき種であるということがあってできるもので、希少種から指定解除となったときにどういった反応が起こるのか非常に不安に感じますね。

小海途 生態系の頂点に立つ猛禽類を守るということは、その生息環境を保全すること、そして多くの生物も同時に守ることにつながる。

オオタカという鳥の価値は、環境省が指定解除しても、本当は何ら変わらないものなんです。

橋 本 オオタカがいれば、自然が守れるというある意味分かりやすい保護団体の考えも、こうなると逆に弱みになってしまう気がしますね。やはり、アセスメント（環境影響評価）がきちんと機能するような法整備が必要ですね。開発ありきの事業アセスでは、貴重な自然環境を本当に守ることはできない。今の猛禽類保護の指針も事業者側の努力義務でしかないため、形ばかりのものとなっているケースも多いのでは。

小海途 開発との折り合いをどうつけていくか、難しい問題ですね。仮に希少種の指定を外れても、オオタカが暮らし子育てできる環境を残したいとその地域の多くの人が望むなら、きっとオオタカとの共生はできるのではないかと思います。大阪府はレッドリストで絶滅の危機にある種を選定していますが、これらを守るための効果のある条例をつくることが望まれますね。

橋 本 お隣の京都府では、2007年に「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」が施行されています。これは、「種の保存法」の府県版とも言えるもので、素晴らしいものですね。大阪府もぜひ見習うべきだと思います。

<http://www.pref.kyoto.jp/kisyosyu/1198225714475.html>
「京都府の希少種対策について」参照

条例で保護すべき希少種として鳥類では、ヒメクロウミツバメ、オオタカ、タマシギ、コアジサシ、ブッポウソウの5種が規定されている。

希少種の指定解除は時期尚早

橋 本 環境省が行った希少種の指定解除に関するパブリックコメントについて、支部でも意見（下囲み参照）を出しましたが、多くの保護団体が反対の声を上げています。10月に東京で行われたシンポジウムに、支部からは清水さんが出席し、会場から支部の意見を発表してもらった（P8～10記事参照）のですが、環境省は、保護団体の意見を聞きましたというだけではダメ！

いろんな問題点を指摘されながら、その対応をとらずに指定解除を急ぐというのは納得できないですね。

オオタカの指定解除の検討に関する意見（2013年6月）

1 意見の要約

- ・大阪府におけるオオタカは減少傾向にあり、関東地方での状況をもって、国内希少野生動植物種から指定解除されるのは時期尚早と考える。長期的に全国の状況をみて、判断すべきで、現時点での指定解除には反対。

2 意見及び理由

・大阪府におけるオオタカの生息状況

2000年、2001年の大阪府による生息調査によると、府内で48つがいのオオタカの生息が確認されている（調査は本支部が実施）。しかし、その後大きな環境変化がない生息地からも姿を消すものが多く、現在府内でのつがい数は、2001年をピークとして4割程度の減少に至っている。環境省のレッドリストでは、オオタカは準絶滅危惧種であるが、大阪府のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類。府内では引き続き保護が必要な種と考える。

- ・国内希少野生動植物種に指定されていたことによって保護された事例など

府内における大型の開発計画（泉州広域農道建設事業、水と緑の健康都市、安威川ダム建設事業など）において、オオタカの生息が確認された場所は、環境省の「猛禽類の保護の進め方」に基づき、調査や工事期間中の配慮、営巣林の保護などが実施され、オオタカとオオタカの生息する環境が開発から一定守られてきた。里山の生態系の頂点に立つオオタカを保護することが、結果として里山の生物多様性を保全することとなった。

・指定解除されることで懸念されること

指定解除となれば、オオタカ保護のための法的な枠組みがなくなり、これまで多くの方の努力で守られてきた環境およびオオタカ保護の取り組みそのものがなし崩し的に見直しとなる。その結果、再開発の恐れやオオタカの生息がおおきく後退することが懸念される。

- ・その他 レッドリスト掲載種の国内希少野生動植物種への指定について

レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている鳥類については、その保護を進めるための法的枠組みが必要であり、国内希少野生動植物種に指定すべきと考える。その中でも、開発問題で生息地が危機に直面しているチュウヒやサシバなどの希少な猛禽類の指定がとくに急がれる。

オオタカ 保護の課題

小海途 「希少種からの指定解除」の問題ですが二つの見方があります。大阪では減少傾向ですが全国的には指定解除をしても良いほど数が回復したですからオオタカにとっては喜ばしい結果だと思います。問題はオオタカが希少種であるがゆえに果たしてきた別の役割です。オオタカはこの間、里山自然環境保護のシンボルとしての役割を果たしてきました。かつてオオタカほど自然環境の保全に大きなインパクトを与えた生き物は日本にはいないですよね。オオタカがこの役割を担わなくなったら、これまで守られていた里山は再び開発の波にさらさられるのではないか？ 同時にオオタカは再び生息地を追われ、数が減少するのではないかという心配です。

橋 本 支部の意見でも書きましたが、レッドリストにあげられている種については、やはり法的な保護の枠組みが必要ですね。数が少なく絶滅の危機にあるとしながら、生息地の開発に何ら規制がないという状況では、何のための指定かということになりますね。チュウヒやサシバの希少種の指定は急がれますね。

小海途 同感です。オオタカという鳥は、昔から鷹狩に使われるなどして、その力強い姿に人々は魅了されてきたんですね。チュウヒやサシバは、それに比べてあまりにも地味で目立たない存在です。でも、それぞれの生息する環境では、やはりオオタカと同じように生態系の頂点に立つアンプレラ種※と言えるわけです。これを守るためにには、その環境に棲む多くの生きものを守る必要があるわけです。

※アンプレラ種：生態系ピラミッドの頂点に立つ生物のこと。アンプレラ種を保護することにより、生態系ピラミッドの下位にある動植物や広い面積の生物多様性・生態系を傘を広げるよう保護できることに由来。

橋 本 我々野鳥の会は、やはり鳥を見るのが楽しい。鳥が好きだから守りたい。でも鳥を守ることがどういう意味があるのか、なかなか一般の方には伝わらない。鳥を含む生態系全体を守ることにつながるということをもっと分かりやすく訴えていくことも必要だと改めて感じました。保護団体V S環境省ではなく、環境省がもっと力を持って、お金も持って、生態系の保全のために、一緒に取り組むパートナーとなってもらえるような形が理想ですね。そのためには、野鳥の会が多くの市民と協働し、サポートしてもらえる存在となる必要がありますね。

オオタカに話をもどしましょう。小海途さんは、大阪のオオタカは、今後増えるのか減るのか、どのようになってくると思われますか？

小海途 オオタカが増えた時期に何が起こっていたのかを考えてみる必要があると思います。

オオタカの数が急激に増えた1990年代、同じ生息環境

の里山にすむトビ、サシバ、ハチクマがほとんどいなくなっていました。また餌を競合するタカがいませんでした。将来、里山の元の住人であったトビ、サシバ、ハチクマはもどって来ないかも知れません。10年ほど前から、餌を競合するハヤブサ、チョウゲンボウがかつてのオオタカのように急激に大阪府で生息数を増やしています。オオタカは森林、ハヤブサ、チョウゲンボウは河原、草原などの開けた場所とある程度の棲み分けはありますが競合は避けられません。今後、一定の数で落ちつき生息し続けるのではないかでしょうか。

今後、オオタカの動向というのは、やはり注意深く見守っていく必要があると思いますね。

おわりに

橋 本 小海途さんにとって、オオタカというのはどんな存在でしょうか？

小海途 オオタカは私の心の中で「本当の鷹」といった位置づけで夢の存在でした。それが現実に目の前に現れ、開発等でその存在を考える立場になり、真剣に対処している間にオオタカを通じて私をとりまく世界が大きくなった気がします。

橋 本 私は、オオタカという鳥を通じて小海途さんや仲間の皆さんと知り合え交流できたことは、本当にありがたいことであったと思います。猛禽類の生態をほとんど知らなかった私は、小海途さんに教えられるばかりで・・・また、オオタカ委員会の席でも常にタカの代弁者として意見を述べていただいたり。

小海途さんがまとめられた「大阪府のオオタカ」の冊子（2013年4月 日本野鳥の会大阪支部・大阪希少鳥類研究グループ）を10月のシンポの際に清水さんから環境省に資料として届けてもらったんですが、やはり科学的な調査を行っていることが、保護を訴える大きな力となると思います。

小海途 こちらこそ橋本さんが府の鳥獣専門員として、たくさん経験をされてきたことなど、アドバイスをいただき助けてされました。橋本さんの後に鳥獣専門員として府に務めた3年間は、橋本さんの大変さがよく解りました。また、私がリタイヤするために橋本さんに（鳥獣専門員を）再登板していただくことになるとは・・・

橋 本 実際、体力的に限界を感じています。でも、やるしかないと（笑）。オオタカの保護の問題なども、今後は若い世代に、うまくつないでいくことが必要ですね。

小海途 そうですね、野外での調査には体力と気力が必要ですから。10代の頃からタカに関わってきましたが、何年やっても新たな発見や驚きがあります。そういう発見や驚きを共有できる仲間がいたこと、これがずっと続

けてこれた大きな力になっています。若い世代へのバトンタッチ、オオタカの保護の課題よりも実は大きな課題かも知れませんね。（笑）

橋 本 オオタカが希少種から指定解除になったら、オオタカ委員会も解散となるのでしょうか？

とにかく委員会が存在する限り、お互い、頑張りましょう。これからもよろしくお願ひしますね。

小海途 こちらこそ、よろしくお願ひします。今日は、遠方まで訪ねていただきありがとうございました。

（取材：2014.12.7 河内長野市にて）

参考 大阪府内の開発とオオタカ保全対策例（主なもの）

年	開発事業名	保全対策等
1999～2008	泉州東部農道と農地整備事業 大阪府で初めて「猛禽類保護の進め方」に従い行われた開発工事	「オオタカ調査検討会」を設置。指針に基づく調査、委員会の提言に基づく対策が実施された。事業完了の翌年までモニタリング調査を実施。
1999～2006	羽曳が丘団地開発事業・南阪奈道路建設工事	アドバイザーとして関与、オオタカの営巣場所を含む山林を「緑いきいきゾーン」として位置づけ、開発地から外し野鳥や植物等の生息できる自然の里として緑の保全を図る。
2000～継続	箕面・水と緑の健康都市開発事業	「オオタカ調査委員会」設置、開発計画地域内にあるオオタカ生息地を環境、地域、多世代との共生をめざす「オオタカ保全区域」に設定し、オオタカ及び野生生物の生息し易い環境づくりを試みている。
2000～継続	安威川総合開発事業（安威川ダム事業）	「オオタカ調査検討会」を設置。指針に基づく調査、委員会の提言に基づく対策が実施された。
2001～2014	堺南部丘陵開発事業（主に道路建設）	アドバイザーとして関与、繁殖状況に配慮した工事の実施等
2005～2008	広域農道岩湧地区開発事業	アドバイザーとして関与、事業区域周辺の2つがいの繁殖状況に配慮した工事の実施等
2011～2012	岸和田丘陵地区整備事業（農地整備・道路建設）	「オオタカ調査委員会」設置、事業区域周辺のオオタカの繁殖状況に配慮した工事の実施等

■小海途銀次郎（こがいと ぎんじろう）

本会幹事、大阪希少鳥類研究グループを主宰。南大阪を中心としたクマタカの生態観察は50年を超える。猛禽類の調査・観察のかたわら、野鳥の巣の標本収集を行い日本産鳥類160種余の古巣を収集。著書に「日本の野鳥巣と卵図鑑」（世界文化社）、「日本 鳥の巣図鑑 小海途銀次郎コレクション」（東海大学出版会）がある。河内長野市在住。

■橋本正弘（はしもと まさひろ）

本会副支部長（前支部長）、現在大阪府鳥獣専門員。小海途さんとともに、大阪府内のオオタカの保護や調査の検討委員などを歴任。大阪市北区在住。

シンポジウム「オオタカ 希少種解除の課題」に参加して

清水俊雄



2014年10月4日（土）に立教大学で開催されたシンポジウム「オオタカ希少種指定解除の課題」（主催：日本野鳥の会・日本オオタカネットワーク、共催：環境省・立教大学）に大阪支部を代表して参加した。

参加者は235名、シンポジウム後半の総合討論では時間を延長する白熱した議論が展開された。

環境省の考え方や保護団体などからの問題提起など当日の議論の内容などを詳しくお伝えしたい。



熱氣につつまれる会場

今回のシンポジウム開催の目的など

「種の保存法」で保護の対象となっているオオタカが、過去2回のレッドリスト改訂では絶滅危惧種から外れ、準絶滅危惧種にランクダウンしたことを踏まえ、環境省はオオタカを国内希少野生動植物種からの指定解除の検討を行っている。しかし、本当に解除可能なほど十分な個体数がいるのか、また解除された場合、自然環境にどのような影響が出るのか、密猟や違法飼養が助長されることはないのか、など多くの課題が浮き彫りになってきた。そこで、公開で広く議論を行って、環境省の判断に影響を与える目的でシンポジウムが開催されたものである。

1 環境省からの説明

（1）「国内野生動植物種の解除について」の考え方

- 「絶滅の恐れのある野生生物種の保全戦略（平成26年4月策定）」の中で、「種の保存法」に基づく「希少野生動植物種保存基本方針」に掲げる選定に関する基本的事項に該当しない国内希少野生動植物種については、その指定を解除することを決定。
- 希少種が個体数の回復により環境省レッドリストカテゴリーから外れランク外と選定された場合、指定を解除する。
- カテゴリーが準絶滅危惧（NT）へとダウンリストし、次のレッドリストとの見直しにおいても絶滅危惧II類（VU）以上に選定されない場合、「希少種保存基本方針」の規定を踏まえ解除による種への影響も含めた指定解除についての検討を開始する。その際、特に解除による個体数減少可能性については十分な検証に努める。

- 解除したことにより個体数が減少し再び環境省レッドリストカテゴリーが上がり絶滅危惧に選定された場合には、再度指定することを検討する。

（2）パブリックコメント結果概要について

意見提出期間：平成25年6月3日～7月2日

意見提出数：75通 以下主な意見

○指定解除のための情報が不十分（49件）

- 全国的な生息状況（地域差）等の把握が必要
- 個体数の増加理由の検証が必要
- 指定解除後の将来予測が必要

○モニタリングの実施の必要性について（5件）

○開発への配慮低下の懸念等（26件）

○違法捕獲・違法取引等への懸念等（31件）

○その他

- 「種の保存法」の指定基準、解除基準再指定の進め方の明確化
- 指定解除後の法的な保護措置についての分析評価が必要

（3）オオタカの生息状況の変遷と現状

「これまでの主な推定個体数に関する調査の状況」

年	推定個体数	調査内容等
昭和59年 (1984年)	全国 300～480羽	日本野鳥の会のアンケート調査
平成8年 (1996年)	全国 1,000羽以上	日本野鳥の会全国支部へのアンケート
平成17年 (2005年)	全国 1,824～2,240羽	日本オオタカネットワーク会員へのアンケート
平成20年 (2008年)	関東周辺10都県 5,818羽 95%信頼限界 3,898～10,392羽	関東地方88の5kmメッシュでのオオタカのつがい数を調査しその数をメッシュの土地利用から推定する式を作成。その式をもとに関東周辺10都県のオオタカの生息数を推計
	全国 5,010～8,950羽	環境省オオタカ保護指針策定調査

※注記

- 平成17年の環境省調査による推計は確認された場所に基づく最低個体数の推計であり、調査を行っていないメッシュの情報が抜けている。
- 平成20年の調査には、「今回の推定値は信頼限界が大きいこと、過大推定かもしれないことを十分に考慮して保全に利用する必要がある。」との記載がある。

（4）オオタカが絶滅危惧II類（VU）に該当するかの検討

アンケート調査と文献調査を合わせて考えると、オオ

タカの繁殖数は1990年代から増加し2000年代をピークに頭打ちがあるいはその後減少傾向となっており繁殖成績も近年は低下している。近年の生息状況の変化を踏まえて評価した場合オオタカが絶滅危惧II類に該当しうるかについて検討した。

オオタカの個体数は2008年の環境省の推定では5,010羽、高い側の推定値で、8,950羽だった。発見されていないオオタカの営巣地が当然あるため、実際の個体数は、これよりも多いことになる。従って、5,010羽～8,950羽という値よりも実際の個体数は多いと考えられ前提条件の成熟個体数が10,000羽未満も該当するか微妙である。以上から生息条件の悪化については、今後の変化を注視する必要があるが最新の情報をもとに検討しても、日本全国を対象とする環境省版のレッドリストとしては、絶滅危惧II類に該当しないと考えられる。

2 自然保護団体からの主な意見

(1) 指定解除のパブリックコメントから見えてくる課題 (公財) 日本野鳥の会参与 金井 裕氏
課題1 生息状況に関すること
①現在の実際の生息数と変化の傾向の分析が不可欠
②個体数や個体数変動の最新情報が示されていない、地域ごとも含めて評価すべき。
③増加や減少、繁殖への影響要因への分析が行われていない。将来の変化予測も行うべき。

課題2 違法捕獲や飼育など鳥獣保護法に係るもの

- ①違法捕獲や飼育の現況はどうなっているか。違法捕獲や飼育を助長する要因があるのではないか。
- ②解除後の捕獲飼育の監視規制は、どうなるのか。

課題3 環境影響評価や里山保全にオオタカが果たしてきた役割に関するもの

- ①開発時の生息地保全義務がなくなり生息環境の悪化が進む。
- ②地域の生物多様性保全のキーがなくなる。
- ③開発時にオオタカの生息保全が今後も図れるか。

環境アセスメントは小規模開発には適用されない。

課題4 指定解除された場合のモニタリング及び状態が悪化した際の再指定

- ・解除後生息状況の悪化がないかモニタリングが必要。モニタリングはどのように実施されるのか、誰が何を調査するか。

※環境省は地域の生物多様性保全上でオオタカが果たしてきた役割をどう評価し継続させていくのか。

(2) 違法な飼育の現状と対処（鳥獣法での対応）

(公財) 日本野鳥の会 葉山 政治氏

- ・背景：1971年オオタカの密猟が横行し、1983年10月オオタカ、クマタカ、ハヤブサなど6種（亜種）の猛禽類が、飼養や譲渡輸出入に関して厳しく制限される「特殊鳥類の譲渡等の規制に関する法律」の「特殊鳥類」に指定され、その後、「絶滅のおそれのある野生

動植物の種の保存に関する法律」（種の保存法）に指定され、捕獲、譲渡が禁じられてきた。

- ・現状で密猟・違法飼育は沈静化したか？司法が積極的に摘発した事例が増加している。

(3) モニタリングと保全状況の評価システム

日本オオタカネットワーク 遠藤 孝一氏

- ・オオタカの生息エリアに対応したモニタリング調査と、評価システムの具体的手法について。

(4) オオタカ保護制度の在り方

(公財) 日本自然保護協会 辻村 千尋氏

- ・パブコメ意見要旨

①指定種解除の基準を先に明確化した後で、個々の種の指定解除を実行する必要があること。

②指定解除のための科学的根拠が不足している。

③指定解除が及ぼす負の影響を考慮すべきであることなどから現段階での指定解除には反対である。また、オオタカのおかれた現状が、決して絶滅の危機を脱した状況ではないので指定解除は時期尚早。

オオタカの現状は、環境に関連する法案が相互に連動しきつ開発事業者側にとどめても自然保護側にとどめても象徴的な存在として機能している状況を維持し保全することが望ましい。

(5) 環境アセスメント調査における問題点

日本オオタカネットワーク 今森 達也氏

- ・指定外の種の生息環境は保全の義務なし（法的根拠なし）。

・事業の公共性、住民の利便性が優先される。

・生物多様性基本法の努力義務は守らなくとも罰則なし。

・丘陵、平地の雑木林などの環境を守ることができなくなる可能性が非常に高い。

・法的根拠が解除されたら、オオタカは、開発に歯止めをかける存在ではなくなる。

○オオタカの指定を解除するのであればほかの「守る方法」が必要

○各地で各種事業に際して、環境アセスメント調査が実施されているが、そのほとんどが事業アセスであるため、希少種との共存、環境保全との両立を図る調整を行っているのが現状である。オオタカの指定解除で、各地域の貴重な環境を守ることができなくなるのであ



れば、事業アセスの意味がない。実質的にヤリタイ放題が可能になる。

3 総合討論

環境省と自然保護団体が「希少種指定解除の課題」の考え方の相違点を巡って激論。パネリスト（前出の環境省職員、日本野鳥の会葉山氏、日本オオタカネットワーク今森氏、日本自然保護協会辻村氏、コーディネーター日本野鳥の会金井氏）と会場参加者との総合討論は、30分延長され議論は、2時間半に及んだ。

＜大阪府の事例報告：清水＞

会場参加者との質疑に入り、司会者から名指しで大阪府のオオタカの現況報告をしてほしいと依頼された。2013年6月環境省に提出のパブコメ意見から大阪府内のオオタカは2001年比4割減少している。関東地方の調査状況もってオオタカを希少種から指定解除するのは問題があり反対と伝え、時間をかけたオオタカの全国調査の必要性を訴えた。また、オオタカが生息する環境が開発から守られてきた事業事例も報告した。

●保護団体のおもな意見と環境省の見解

（・：保護団体 ⇒：環境省）

- ・法的規制がないと調査等が実施されずオオタカの暮らす里山は守れない。
- ・指定解除後にアセスメントをどう対応させるのか。
⇒種の保存法は、絶滅の恐れのある種を保全、回復させる法律。絶滅の恐れのある種とは、レッドリストでVU以上としている。法指定で権利の制限をしているので、要件に該当しなければ解除する方針。里山等の生態系の保全には別の取り組みが必要。都道府県独自の条例でオオタカを保護することも考えられる。指定解除後も「猛禽類保護のガイドライン」は有効。
- ・環境省のオオタカのデータは机上論にすぎない。
⇒全国的に分布し、ある程度の個体数を有する種の個体数を把握するには、推定を行うことが必要。オオタカの最新の個体数は、研究者が関東地方で行われた現地調査に基づいて、生息環境を分析し、ポテンシャル解析を行った結果。
- ・WWF J：環境省は3年後の見直しを約束しているが法律にかかる3年後をどう見直すのか。※注記
⇒見直しは行うが、中身はここではお答えできない。

※WWF Jの意見に関する注記

「種の保存法」の一部を改正する法律が2013年6月4日に衆院本会議で可決成立した。

主な内容、第1条に「生物多様性の確保」が明記された。また、第2条に国の責務として「科学的知見の充実を図ること」がくわえられた。NGOは、抜本的改正を求めたが法律は小幅な改正にとどまった。しかし、衆参両院で11項目に及ぶ付帯決議がつけられ、3年後の見直しに向けた課題が整理された。

以上のように、環境省の姿勢に批判的な発言が大半を占めた。保護団体の思いと環境省の考えがかみ合わないものも多くあり、質問や意見に対し環境省が明確な回答が出来ないことが多くあった。

おわりに 私の思い

私が長く関わっている堺市の南部丘陵においてもオオタカの営巣が確認されたことで、モニタリング調査が継続して行われ、開発計画の見直しが行われてきた。オオタカが「種の保存法」の指定種であることで、里山環境が保全されてきた。「種の保存法」の指定は里山開発の抑止力になってきたことも疑う余地はない。



今回のシンポジウムの前日に「環境省希少種保全推進室」を訪問し、「大阪府のオオタカ（日本野鳥の会大阪支部・大阪希少鳥類研究G作成、2013年）」を手渡し、担当者2名に大阪のオオタカの現状について説明のうえ、希少種指定解除に関する意見を交わした。

また、シンポジウムの中でも、発言の機会を与えられ大阪支部の考え（パブコメ意見の概要）などを訴えた。

しかし、そのわずか10日あまり後の10月16日に開催された中央環境審議会自然環境部会第5回野生生物小委員会で、環境省は、今回のシンポジウムの結果を委員会に報告し、オオタカを「種の保存法」の指定から解除する方針を示した。

2013年6月に募集したパブリックコメントと今回のシンポジウムでも多数が環境省の取り組み姿勢に反対している。環境省は自然保護団体と合意形成が得られないまま、拙速に結論を出そうとしている。

オオタカは全国的に見れば、種としては確かに増えてきていて、現状で絶滅の恐れがある種とはいえない。しかし生態系の上位種、指標種であることは変わらない。種としてのオオタカの保護ではなく、オオタカの棲む環境を評価し、保護していくという視点が大切である。

日本野鳥の会本部とも連携を取り、情報を共有しながら、安易にオオタカの希少種の指定解除がなされないように、引き続き取組みを進めていく必要がある。

環境省が、少なくとも我々保護団体の意見に真摯に耳を傾け、オオタカと日本の里山環境の保全に国民の多数の皆さんに納得できる形での対応を取られることを強く願っている。

（しみず としお 2014.12.5記）



2年前、この連載でムクドリの集団ねぐらを取り上げた際、近年本当にムクドリの集団ねぐらが市街地に増えたのか調べる必要があると書きました。それから2年、この秋から冬、大阪府内のムクドリの集団ねぐらを調べています。そこで今回は、進行中のムクドリの集団ねぐら探しを見てみましょう。テーマは、ムクドリの集団ねぐらの位置の変化です。

●大阪府内のムクドリの集団ねぐら探し

2014年9月から12月10日までの間に、大阪府内で18ヶ所の集団ねぐらが確認されました。日本野鳥の会大阪支部（1992）には、1990年12月～1992年1月に確認された集団ねぐら21ヶ所が示されています。同じ場所の確認を順次進めていますが、今のところ同じ場所に集団ねぐらは確認されていません。20年も経てば、集団ねぐらの位置は随分変わらるようです。

ところで、ムクドリが夕方集まっていたという情報をもらって確認に行っても、ムクドリの集団ねぐらがないことがしばしば。どうしてそんなことになるんでしょう？

●ムクドリの集団ねぐら探しで振られる理由

情報を確認に行ったのに、集団ねぐらを見つけられなかっただ例をいくつか紹介しましょう。

阪急北千里駅前（吹田市）：8月に集団ねぐらがあったと聞き、10月19・23日に行きましたが見つからず。ここは夏だけなのかもしれません。

大阪市立大学：秋から冬に数千羽規模の集団ねぐらができるので有名です。しかし、11月2日に確認できず。11月24日夕方に大学近くの鉄塔にムクドリが多数集まっていたと聞き、3日後確認に行きましたが、鉄塔にも大学にもムクドリの大群は見当たらず。わずか数日で全然状況が変わってしまうようです。

泉北高速鉄道光明池駅（堺市）：納家（2014）は、9月8日に3000羽以上のムクドリが集まっていたが、堺市職員がムクドリの追い払いを行い、翌日以降、激減したと報告しています。しかし、10月24日に再び1000羽以上が集まっているという情報があり、11月1日に確認に行きました。しかし集まったのは、約500羽だけ。再び追い払われたのかも知れません。

このようにムクドリの集団ねぐらの位置は、年によって季節によって、時には数日で変わるようにです。集団ね



図1：ムクドリの群れ（納家 仁）

ぐらに集まるムクドリの個体数はどのように変化するものなのでしょうか？

●ムクドリの集団ねぐらの消長

奥田・奥田（2008）は、大阪市生野区の集団ねぐらに集まるムクドリの個体数を、秋～春に3日に1回以上という高頻度で、2シーズン調べています。400mほどの範囲に5ヶ所の集団ねぐらがあり、それぞれのねぐらと、全体での就飼個体数の季節変化が示されています。

その結果を見ると、2シーズンとも11月～12月に個体数が多くその後減ります。ただ1月以降の個体数は、2年目は1年目の平均約4倍にもなっています。また、個々のねぐらの個体数は日々随分と変化します。数百羽いた次に0羽ということまであります。ただ個体数の変動は、5ヶ所をまとめるとゆるやかになります。さらに広い範囲でみると、どうなるのか気になります。

この調査結果から、ムクドリが寝る場所は日々けっこう変化することがうかがえます。すると、情報をもらったり次の日に行っても、ムクドリがいない事もあり得ます。調査しにくい鳥です。

●野外で実際に観察してみよう

夏にはツバメの集団ねぐらの観察会が開かれますが、ムクドリの集団ねぐらの観察会が開かれることはあまりありません。でも、ねぐら入りの際のムクドリの乱舞は、ツバメ以上にダイナミックで見応えがあります。先入観を捨てて、是非一度見に行って欲しいと思います。

大阪府内のムクドリの集団ねぐらの情報はまだまだ集めています。ねぐらの位置が分からなくとも、夕方、ムクドリが集まっているのを見かけたら、ぜひ観察日と詳しい観察場所（所番地まで）を、お知らせください。



図2：りんくうタウン駅南東側のムクドリのねぐら入り。
約7200羽が乱舞した。2014年11月11日、米澤里美氏撮影。

●引用文献

奥田幸江・奥田幸男（2008）大阪市におけるムクドリの就飼個体数の秋から春にかけての季節変化。Strix 26: 135-145.

納家 仁（2014）堺市光明池駅前バスロータリーのケヤキ、むくどり通信(234): 21.

日本野鳥の会大阪支部（編）（1992）都市鳥調査報告書。大阪府農林水産部緑の環境整備室、大阪。34pp.

和田 岳（わだ たけし）：本会幹事、大阪市立自然史博物館学芸員。H P「和田の鳥小屋」
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/wada/wada-index.html>

◇幹事会報告(11月・12月)◇

◆11月幹事会(11月4日 出席幹事21名)

【審議事項】主なもの

- ・大阪自然史フェスティバル支部の取組みについて協議

◆12月幹事会(12月2日 出席幹事17名)

【報告事項】主なもの

- ・大阪自然史フェスティバルの結果報告。
- ・サシバの府内での生息状況の把握や保護を目的とした大阪自然環境保全協会のサシバプロジェクトin大阪に協力する。H27年度から調査着手。

【審議事項】主なもの

- ・幹事会のあり方、活性化策について意見交換(継続)

大阪支部・事務局だより

新年あけましておめでとうございます。時が経つのは早いものでまた新たな一年の始まりを迎えました。本年も日本野鳥の会・大阪支部をどうぞよろしくお願ひいたします。

私は鳥に関しては初心者なのですが長く続く趣味があります。観劇することです。ストレートプレイもミュージカルも好きですが特に宝塚歌劇を観ることが好きです。昨年は宝塚歌劇百周年でしたのでテレビでの報道や新聞、雑誌への記事も多く阪急に乗車された際にはいつもにもまして華やかなポスターを目に入れた方も多いことでしょう。

歌劇を観る際に私は双眼鏡を挙げて舞台上の生徒(宝塚ではいくらトップスターでも生徒と呼ぶのです)を凝視します。皆さんがお持ちの双眼鏡とは比べ物にならないほど性能がよくないのですがそれでも長年見続けたこの目は舞台の隅っこで輝くスターの卵を見逃さないのです。私は正直言って舞台の真ん中で大きな羽を背負っているトップスターより舞台の隅や奥のほうで「これからスターになるぞ!」とかすかながら確かな光を放つ下級生を見つけるほうがドキドキするのです。

もしかするとそれは鳥を見にいかれる皆様が思いもかけない場所で思いもかけない鳥に出会われた時のドキドキに似たものがあるかもしれません。

スターの卵は見つけられるのになぜ鳥は声がしているのに見つけられないのか。まだ鳥を見る目ではないのでしょうか。それに経験も積んでいないこともあるでしょう。

事務所に見えた会員の方に教えていただきました。「まずはありふれた鳥、たとえばスズメでもいいからそれを観察する。すると続いているうちにあれはスズメじゃないと思う個体に気づくようになる。そうして判別できる鳥が増えるのよ。」と。

今年も1種類でも多く判別できる鳥が増えるようアンテナを張り頑張りますので皆様よろしくご教授ください。
(田村貴子)

ご寄付 10月～11月

14,000円：マイツアーズ坂上様 30,000円：川名国男様

ありがとうございました大切に活用させていただきます。

新入会の状況(9/16～11/15)

<正会員>12名 入会 <むくどり会員>30名 入会

保護活動/ACTION

■どうなる南港野鳥園 -2014年12月上旬での状況-

高田 博

2014年10月17日に選定委員会の意見を踏まえて、NPO法人南港ウェットランドグループが下記の事業に関して、大阪市(大阪市港湾局、住之江区)との協働事業者となりました。

◆事業内容：1.湿地の保全(鳥類調査、ベントス調査、湿地現況調査、湿地清掃など)、2.環境学習(来園者への野鳥ガイド、観察会・勉強会・講習会などの実施)、3.広報と啓発(HP、園内掲示物など)

◆事業期間：2014年11月1日～2019年3月31日

事業の具体的な実施は2015年からとなります。とくに、野鳥ガイドについては、関係団体を含めて改めて案内させてもらいます。当面は、南港ウェットランドグループのメンバー中心で日曜日に野鳥ガイド(2名体制)を継続していきます。

鳥類調査については、野鳥園がモニタリング1000シギチ調査のコアサイトですので、最低毎週1回実施中です。また、ベントス調査は3月に1回実施予定です。

野鳥の会大阪支部の恒例の1月夜のカモ観察会と星座観察会は、南港ウェットランドグループとの共催での実施となります。協働事業者の行政も参加予定です。

なお、年2回にわたって有識者と、私共NPOおよび行政との会合(アドバイザリーボード)があり、早速、2014年12月19日に第1回が実施されますが、今回はまだ事業がはじまったばかりですので、これから課題について話し合うこととなると思われます。

ただ、これらの事業を初年度から高い目標で遂行することは困難です。次年度から徐々に皆さんのが協力を得て、人材を育成し、環境学習や広報内容の充実を図りながら野鳥園を活性化していかなければと思いますので、よろしくお願いします。

また、会議室など野鳥園の施設をご利用の際には、私の方まで声をかけてください。

■カムバック・チュウヒプロジェクト

【11月度鳥類調査・樹木伐採作業報告】11/11 参加者6名

・チュウヒの出現状況：9:54 VWYポンド上空を旋回し高度を揚げ北西に飛び消失

・他の鳥類の出現状況：36種中、猛禽類5種ミサゴ(17)、トビ(6)、ノスリ(3)、チョウゲンボウ(4)、ハヤブサ(2)

・樹木伐採作業：高木のセンダン、低木のノイバラ、ハリエンジュなどの伐採刈り取り作業

【11月度鳥類調査・樹木伐採作業報告】12/9 参加者4名

・チュウヒの出現状況：10:24 XポンドからWポンド方向へ低く飛ぶ。15:42 MポンドからSポンド方向へ飛ぶ、いずれも先月出現個体と同一と思われる。探餌飛翔。

・他の鳥類の出現状況：39種中、猛禽類は、コチョウゲンボウなど6種

・Qポンドの樹木伐採作業：高低木の伐採とQ池西側ヨシ帯の岸辺までの管理道を確保。

※1月度2月度の調査・作業予定1/20、2/17 石津川駅前9時集合。

参加希望者は清水まで(TEL072-299-1779)

大阪自然史フェスティバル2014 ミゾゴイ 講演会

森に生きる不思議なサギ ミゾゴイ～そのくらしを知り、保護を考える～を開催

11月15日

参加者160名

■高まるミゾゴイへの関心

2014年11月15日午後、大阪自然史博物館講堂において行われた、大阪自然史フェスティバル2014 記念シンポジウム「森に生きる不思議なサギ ミゾゴイ～そのくらしを知り保護を考える～」は、160名もの参加があり成功裏に終了しました。

「ミゾゴイの魅力～分かってきた生態と習性～」と題してミゾゴイ研究会代表の川名国男氏に基調講演をいただきました。戦前戦後の野鳥観察の先駆者たちがミゾゴイをどう見て、どうとらえていたかについての論考に続きミゾゴイの生態について貴重な画像や特徴のある鳴き声などを披露していただきました。春の渡来直後は10日間ほど、夕刻から早朝まで鳴き続けること、片翼を上げて行う雛の餌乞い行動など、非常に興味深い生態についてお話しいただきました。



これまで夜行性の鳥であるとされてきたことに疑問を持たれ、生態の解明のために多くの時間をさかれ、ミゾゴイが昼行性の鳥であることを明らかにされたことなど、川名さんの研究への取組みやその成果に感銘を受けました。

次に私、納家が2013年10月に新梅田シティの人口庭園に出現したミゾゴイについて、3日間にわたる採餌行動を中心に密着観察した調査の報告を行いました。ミゾゴイの生態を捉えた画像を多く用い、調査結果を出来る限り分かりやすくお伝えしました。

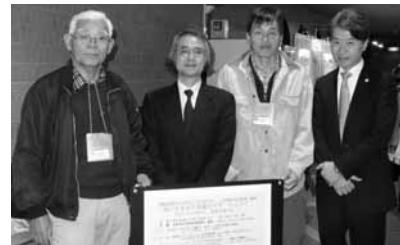
パネルディスカッションは、当館主任学芸員の和田岳さんの司会進行により行われました。討論に入る前に本会副支部長の橋本正弘さんから、昨年の新たなミゾゴイ営巣確認に伴い大阪府内における鳥獣保護区が拡大されたことの報告をしていただきました。



続いて、ミゾゴイが飛来した新梅田シティの「新・里山」の計画・管理を担当されている積水ハウス（株）環境推進部長の佐々木正顕さんから、都市で生き物たちと共に存する環境をいかにつくっていくか、新・里山での取組みや鳥や蝶が飛来する「5本の樹」の計画など、大変興味深いお話をありました。

■ミゾゴイを守るために

①なぜ保護が必要か、②営巣地の保護についての課題③環境省の取組みへの期待、④渡りの中継地としての都市の緑地の役割などについて、意見交換しました。また、会場からミゾゴイの生態に関する質問や保護に関する意見などもいただき、有意義でした。



講演会終了後 川名氏を囲んで
もいただきました。

地味で目立たず観察機会も少ないミゾゴイに、より多くの方が関心を持っていただくことが、保護を進めるうえで重要であることを再認識しました。

講演会にご参加いただいた皆さんありがとうございました。

*講演に使ったパワーポイントの資料、会場でのアンケート結果などを支部のホームページに掲載しています。
<http://sun.gmobb.jp/wbsj-osaka/conservation/mizogoi/index-mizogoi.html> 関心のある方は、ぜひご覧ください。

会場では、川名国男さんが執筆された本「ミゾゴイ～その生態と習性～」の販売も好評で（ミゾゴイを知るならこの1冊という本で、アマゾンなどを通じて購入できます）、用意した40冊が完売となりました。



なお、本の売上金6万円のうち、3万円を川名さんから大阪支部にご寄附いただきました。

大阪支部では、来年度以降、ミゾゴイの府内での生息状況調査などに取り組みたいと考えています。

ぜひ、皆さんご協力ください。 (納家 仁)

大阪自然史フェスティバル2014、 『はじめての鳥見たい（隊）』

バードウォッチングの初心者を対象に11月16日の午前・午後の2回に分けて実施しました。天候に恵まれ、155名の参加者があり、大盛況でした。

今年は、お目当てのカワセミのほかに、ジョウビタキやキクイタダキ（午前の部）、カラスにモビングされるハイタカ（午後の部）などを確認することができました。

なお、このイベントは、興和光学株式会社のご協力により、貸出用機材の提供を受けました。

フェスティバルに協力いただきましたスタッフの皆さん、ありがとうございました。



※大阪自然史フェスティバル2014来場者数：
11/15：10,500人+11/16：12,800人=合計23,300人

例・会・報・告

2014.10.4 ~ 2014.11.24

◎U50 大泉緑地<10/12>

心配された台風19号の影響はまだなく、暑いくらいの天気のもと無事に開催できた。集合場所前の大泉池では、カワセミを全員で観察。

前半の水流付近では、留鳥のシジュウカラやコゲラ、夏鳥のキビタキ、秋の渡りのコサメビタキやメボソムシクイ、冬鳥のアトリなど、この季節ならではの多くの鳥たちとの出会いがあった。

林の中では、サンコウチョウの姿も。昼食場所近くの田んぼでは、束ねた藁に止まるノビタキも秋を感じさせてくれた。

最後に大泉池を回ってきたとき、カツブリの親が何度も潜って餌を取り、雛に与えている様子が微笑ましかった。

◎バーディ 万博公園<10/18>

暑さを感じるほどの快晴となった10月バーディ・万博公園。今回は秋の渡り鳥たちを求めて園内を散策。いろいろなところで姿を見せたコサメビタキ、参加者のすぐそばまで寄って来たキビタキ、お茶畠で餌を探すノビタキとモズ。渡って来たばかりのアトリの群れをじっくりと観察できました。

野鳥以外にも、いろいろな木の実を手にとって、観察して、実際に食べてみたり。また、カマキリやトンボ・バッタなど、昆虫にも目を向けてみました。

◎古の葛城路<10/19>

参加者からのコメントは、16ページをご覧ください。

◎植物観察会 北千里の野草<10/20>

全市域が都市計画上の市街化区域である吹田市において、大阪府に無いとされていた植物「ヤマサギソウ」が3年前に発見されました。

ヤマサギソウは今の季節、全く見ることができませんが、大阪府レッドリスト2014で絶滅危惧Ⅰ類、Ⅱ類となっているアイナエ・イヌセンブリ・スズサイコを中心に、30種ほどの野草を観察しました。

雨が降り始めたこともあって、コースを急ぎ鳥は全く観察しませんでしたので、途中で声を聞いた6種のみにとどまりました。

参加者からのコメントは、16ページをご覧ください。

◎平日 菊水山<10/22>

曇り空を気にしつつ出発。カラスザンショウの木を次々と見上げるが鳥の姿なし。メジロ・シジュウカラ・ヤマガラ・コゲラの混群が時々飛ぶ。

キョッ、キョッと鳴く声がするので、探すと枯れ木にアカゲラを発見。ソウシチョウの声も近くで聞こえた。

昼食後とうとう雨が降ってきたが、ようやくムギマキを確認。寒い一日だった。

◎バーディ 神戸市立森林植物園<11/3>

参加者からのコメントは、16ページをご覧ください。

◎平日 山の辺の道<11/19>

秋晴れの中、山の辺の道を利用しながら探鳥を開始しました。電線に止まるビンズイ、堀にいるマガモ、田畠に多いモズをゆっくり観察しながら進みました。

途中、カシラダカの群れを観察し上尾筒の鱗模様を楽しみました。

最後は三輪神社でお参りをして解散しました。

◎龍田川・法隆寺<11/24>

参加者からのコメントは、16ページをご覧ください。

～日帰りバスツアー 藤前干潟・弥富野鳥園に参加して～<10/4>

ラムサール条約登録地に惹かれて、シギチは苦手なのに参加。10時半頃には名古屋市野鳥観察館に到着。建物は小さくても、スコープが2階だけで18台もあり、大助かり。目に入ったのは膨大な数のカワウ。2,000羽位いるとか。ハイライトはミサゴ。長～く広がる砂州に点々と。こんなに多く（15羽?）のミサゴを見たのは初めて。魚を食べる姿もゆっくり観察。ハヤブサがミサゴのそばに止まつたので、大きさの違いがよくわかりました。カモは遠すぎて万年初心者の私にはスコープでも??。コガモ・マガモ・カルガモ・オナガガモ等。スズガモだけが4羽、近くまできました。カモメ類は、ウミネコ・セグロカモメ・オオセグロカモメ。シギ・チドリは潮の関係で、オオソリハシシギだけ。

昼食後は弥富野鳥園に。池の上を乱舞するショウドウツバメが圧巻。今日は特に多いとのことで、数百羽もいたでしょうか。スピードが速すぎてじっくり観察するより、見とれています。キンクロハジロ・コガモ・カツブリ・ハシビロガモ等。キセキレイ・モズ。

最後に、すぐそばの鍋田干拓地へ。今は農耕地になっていて、畝の間の葉の陰にタシギ。最初は遠くて、黒い塊状態でしたが、帰りは近くまで来歩いて、双眼鏡でも顔の縞模様がはっきり見えました。そして、キジ♀&若鳥が別の畠の畝に。エサをついばみながら移動。時々首を伸ばすので、赤い目がぱっちり。3羽+別の畠に2羽。♀をこんなにゆっくり見られるのは珍しいそうで、幸運な出会いでした。道に出てきたハクセキレイは若鳥で顔が黄色。空にはヒバリ。

出会った鳥53種。参加者41名。心配な台風も来ず、晴れ薄曇りで快適な一日でした。リーダーの皆様ありがとうございました。

おまけ：車中のDVD「プロジェクトX」も「ラブラボ」（子ども番組）もおもしろく、1人参加でも退屈しませんでした。バスツアーは楽しいです。

（大阪市中央区 神谷伸子さん）

～バーディ 万博公園に参加して～<10/18>

今日は気持ちのよい秋晴れで、絶好の観察日和でした。集合場所でオオタカが飛んだり、ここでは珍しいコシアカツバメが飛んだりしました。

ぼくが一番よかったのは、今秋初のアトリの群れや、ノビタキの♀を見たことです。アトリの群れとカララヒワは、アキニレの木にとまって、実を一生懸命ついばんでいました。キョキョキョというアトリの声もよく分かりました。

次によかったのは、コサメビタキやキビタキの♀、オオムシクイを間近でゆっくり見たことです。コサメビタキのジジジというケンカの声も聞きました。

三番目によかったのは、それぞの鳥の大好物を教えてもらったことです。今日は鳥だけでなく、植物や昆虫についても教えてもらい、勉強になりました。

みなさん今日は一日、ありがとうございました。

（大阪市城東区 藤岡大地くん（小3））

■2014年 一般探鳥會出現鳥リスト<10~11月>

● 多い ○ 普通 ▲ 少ない △ 稀 × ごく稀

番 号	種 名	所 場	月	10					11			出 現 回 数	
			日	4	12	18	19	20	22	3	19	24	
				バスツアーバー	U50大泉緑地	古の薔城路	植物観察会	平日菊水山	平日	パーティ	山の辺の道	神戸市立森林植物園	龍田川・法隆寺
5	○キジ	○								○			2
24	▲オンドリ									○			1
26	○オカヨシガモ										○		1
28	●ヒドリガモ	○	○								○		3
30	●マガモ	○								○	○		3
32	●カルガモ	○	○		○					○	○		5
34	●ハシビロガモ	○											1
35	●オナガガモ	○											1
38	●コガモ	○	○							○	○		4
42	●ホシハジロ	○								○			2
46	●キンクロハジロ	○	○							○	○		4
47	○スズガモ	○											1
62	●カイツブリ	○	○	○	○					○	○		6
66	▲ハジロカイツブリ	○											1
74	●キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		9
78	▲アオバト		○										1
127	●カワウ	○	○		○						○		4
144	●アオサギ	○	○	○	○						○		5
146	○ダイサギ	○	○								○		3
147	▲チュウサギ	○	○										2
148	○コサギ	○	○										2
174	●バン	○									○		2
175	○オオバン	○	○		○					○	○		5
195	●ケリ										○		1
219	▲タシギ	○											1
225	▲オオソリハシシギ	○											1
244	○イソシギ										○		1
293	○ウミネコ	○											1
299	○セグロカモメ	○											1
301	▲オオセグロカモメ	○											1
339	○ミサゴ	○											1
342	○トビ	○		○		○	○	○	○	○	○		5
349	△チュウヒ	○											1
355	▲ハイタカ	○								○	○		3
356	▲オオタカ	○	○	○	○				○	○	○		7
358	▲ノスリ	○		○						○	○		4
364	△クマタカ				○								1
383	○カワセミ	○	○		○						○		4
390	●コゲラ	○	○	○	○		○	○	○	○	○		7
393	▲アカゲラ							○					1
397	○アオゲラ						○						1
401	▲チョウゲンボウ				○								1
407	▲ハヤブサ	○											1
418	▲サンコウチョウ		○										1
420	●モズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		9
427	○カケス				○			○	○	○			3
435	●ハシボソガラス	○	○	○	○		○	○	○	○	○		8
436	●ハシフトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		9
442	●ヤマガラ	○		○	○		○	○	○	○	○		6
445	●シジュウカラ	○	○	○	○		○	○	○	○	○		8

番 号	種 名	場 所	月	10					11			出 現 回 数	
			日	4	12	18	19	20	22	3	19	24	
				バスツアーバス	U50大泉緑地	パーク万博公園	古の葛城路	植物観察会	北千里の野草	平日	山の辺の道	平日	
452	●ヒバリ		○		○								2
455	▲ショウドウツバメ		○										1
457	●ツバメ		○										1
459	▲コシアカツバメ				○	○							2
461	▲イワツバメ					○							1
463	●ヒヨドリ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
464	●ウグイス				○		○		○	○	○	○	5
466	●エナガ		○	○	○			○	○	○	○	○	7
476	○オオムシクイ		○	○	○								3
477	○メボソムシクイ		○										1
479	▲エゾムシクイ		○										1
485	●メジロ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
506	●ムクドリ		○	○	○	○				○	○		6
521	●シロハラ									○	○	○	3
525	●ツグミ									○	○		2
536	○ルリビタキ									○			1
540	○ジョウビタキ				○				○	○	○		4
542	○ノビタキ		○	○	○								3
549	○イソヒヨドリ				○		○		○	○	○		4
552	▲エゾビタキ		○		○								2
553	▲サメビタキ		○						○				2
554	○コサメビタキ		○	○	○				○				4
558	○キビタキ		○	○	○			○					4
559	△ムギマキ								○	○			2
561	○オオルリ								○				1
568	△ニュウナイスズメ										○		1
569	●スズメ		○	○	○	○	○	○		○	○	○	8
573	●キセキレイ		○		○	○		○		○	○	○	6
574	●ハクセキレイ		○	○	○	○		○	○	○	○	○	8
575	●セグロセキレイ		○	○	○		○	○	○	○	○	○	7
580	○ピンズイ									○	○		2
584	▲タヒバリ										○		1
586	○アトリ		○	○	○				○				4
587	●カワラヒワ		○	○	○	○			○	○	○		7
602	○イカル		○	○	○					○			4
610	●ホオジロ				○		○		○	○	○	○	5
617	○カシラダカ									○	○		2
624	●アオジ								○	○	○		3
625	▲クロジ								○				1
-	●ドバト		○	○	○	○				○	○		6
-	△ソウシショウ							○					1
種 数 合 計			53	38	27	42	6	25	26	39	46		-
参 加 者 数			41	8	18	47	24	13	17	39	57	264	

■リーダー研修会in大阪湾(11月29日)の中止について

11月29日、開催予定であったリーダー研修会については、たくさんの皆さんから参加申し込みをいただいていましたが、借り上げ予定の船が急遽大規模な修理が必要となり使えなくなったために、やむを得ず中止としました。修理が完了した3月中・下旬の実施について現在検討中です。改めてご案内しますので、ご了解お願いします。

~古の葛城路探鳥会に参加して~<10/19>

古（いにしえ）の葛城路での探鳥会ということでむくどり通信で見て、同じ奈良県でありながら、行なったことがなく、よさそうでどんな所かと行く前から、楽しみにしていました。

その日は、快晴で「とてもいい探鳥会になるだろうな」とワクワクした気持ちでスタートしました。柿本神社について浅尾リーダーの説明の後、古い街並みやモダンな家がミックスされた住宅街を通って行きました。まず、最初の猛禽類はトビから。屋敷山公園では口を開けた鯉がたくさんいたり、アヒルもいました。モズ・イソヒヨドリ・ホオジロ・ジョウビタキ等を観察しました。イソヒヨドリは、海でなくても見れますね…。ジョウビタキを見ると、「来てたのね！」と嬉しい気持ちになりました。葛城山麓公園に着いて、ホームページを見て参加した方とおしゃべりしながら、お弁当を食べました。また、参加してくださるといいな。

昼食後、頂上に登るということで、歩いているとクマタカが飛んでいました！ つがいで飛んでいるのをじっくり見ることができて、みんなで盛り上がってきました。クマタカはなかなか見られないということなのでラッキーでした！ 写真を撮ったのですが、飛んでいるのを撮るのは難しいですね…。上手に撮られた方もいらっしゃいました。撮りましたか？ この季節に桜が咲いていました。その日にインターネットで秋にも咲く桜のことが偶然にも載っていました。コブクザクラかな…？ 水車も見かけました。アトリがいるということで、引き返して、田んぼの中に群れがいるのを見ました。ノビタキをソバの花が広がる近くで、まず1羽観察し、次に2羽いるのを観察しました。葛木坐火雷神社（笛吹神社）でお参りをしました。何と大砲もありました！ 敵傍山も見られました。ノスリが止まっているのを観察。カラスが攻撃して、しばらくはそのまま止まっていましたが、その後飛んでいき、さらに近い所に止まりました！ すぐカラスが近い所に止まったため、また飛んで行ってしまいました…。カラスは猛禽類やアオサギ等を攻撃してのを見かけますね…。最後はカワセミも見ました！ お天気も良く、猛禽類等じっくり観察することができ、神社を案内して頂いたり、のどかな田園風景が広がる中での、とても楽しい探鳥会でした。案内してくださった浅尾リーダーをはじめ、リーダーのみなさん、有難うございました!!

（大和郡山市 佐々木晶子さん）

~植物観察会 北千里の野草に参加して~<10/20>

今回の「吹田の原っぱ散策」というタイトルに興味を持ちました。大阪府下の里山の風景やいきものが減少していく現況下で、都市部の人があまり目を向けない地で、かつての里山の植物が生き延びているということを目の当たりに体験できる観察会でした。

存続の秘密は、年2回定期的に草刈りが行われてきたことと、人があまり入らないということのようです。千里ニュータウンができる40年以上になり、団地の周辺には住宅や病院などが建って、一見、山野は見られない町の中ですが、その道の斜面や空き地が小さな原っぱとして残っていました。

斜面では、絶滅危惧種アイナエ・イヌセンブリ、山野草のワレモコウなどの小さなかわいい花を見ました。空き地には、一面メリケンカルカヤの穂が広がっていました。かつては、農家の人が行なってこられたであろう草刈りが今は都市環境維持のために行われて、それが貴重植物を守って来たということです。

このような事例をもとに、都市の自然をしっかりと見て、身近に価値あるものを見つけて、残そうというように市民の関心が向かえばよいなと思いました。

（枚方市 石川新三郎さん）

~パーティ 神戸市立森林植物園に参加して~<11/3>

肌寒い一日でしたが、紅葉も見られ、秋を感じた一日でした。

神戸市立森林植物園には初めて行きましたが、様々な木の種類が見られて勉強になりました。大王杉の長い落ち葉に驚きました。

鳥の方も、アトリやジョウビタキなど、季節を感じる鳥が見られました。ヤマガラ・シジュウカラなどの声は勉強できましたが、ホオジロ・アオジ・クロジの地鳴きを聞き分けることは難しいです。初めてムギマキを見られたことがとても嬉しかったです。きれいなオレンジ色が印象的でした。参加者全員見ることができたようよかったです。本日はありがとうございました。

（箕面市 佐々木麻耶さん（U50））

~王寺・法隆寺探鳥会に参加して~<11/24>

11月24日の王寺・法隆寺一般探鳥会に参加した鵜瀬麻弥の父です。いつも娘に、リーダーや参加者の方々がやさしく接してくださり、感謝しております。

王寺駅北口に、午前9時に集合、まず大和川の堤防に。早速、モズ・オオタカ・イソシギ等と出会うことができ、興奮しました。娘が川にスコープに向けてオカヨシガモの雌を2羽発見、福寄リーダーから「良く発見したね」と言ってもらい、家では見せないと満足した笑顔を見せっていました。

今回、斎藤リーダーの横で、たくさんの知識を得ることができました。恥ずかしい話なのですが、モズが鳥の鳴き声の鳴きまねをすることを知らず、教えていただきました。その後、秋の季節を満喫できるコースを通り、龍田川沿いの非常に紅葉の綺麗な川沿いの休憩所で、とても気持ちのよい空気の中、昼食を大変おいしくいただきました。

龍田川に架かる橋を渡り切ったところでは、ジョウビタキを近距離で見ることができ、感動しました。まわりは、秋の景色と歴史情緒が溢れる、とても心に残る景色でした。それと同時にリーダーの参加者に対する心配りや、通行人の人達に対する失礼のない対応には、頭が下がる想いでした。さらに田園風景が広がる所では、カシラダカ・ビンズイ・ツグミなどと出会いました。今回、車椅子での御参加の方がおられましたが、上村リーダーが、大変ていねいに接しておられ、心温まる想いをしました。

今回の田園で出会った鳥達を見ると、冬鳥が徐々に来ていることを感じました。コースも終盤に差し掛かるところで、今度はニュウナイスズメを見ることができました。その時に初めて雄は頭の色が赤茶色だと知ることができました。このコースは、たくさんの猛禽類にも会えるコースだと思いました。

（大東市 鵜瀬秀作さん）

11月24日に王寺・法隆寺探鳥会に参加しました鵜瀬麻弥です。一番印象に残ったのは大和川にいたオオタカとオカヨシガモのメスと、解散してからのハイタカのオスでした。オオタカは近くで見ると意外に大きく感じて驚きました。オカヨシガモは私が一番好きなカモです。ハイタカのオスは、農耕地にいました。オスだったので淡いオレンジ色がきれいでました。

この探鳥会は毎年参加しているので、来年も参加したいです。また、いろいろ教えてください。よろしくお願いします。最後に、今回の探鳥会を引率してくださったリーダーの皆さん、大変お疲れさまでした。ありがとうございました。（大東市 鵜瀬麻弥さん（小5））

定例探鳥会(2015年1月1日～3月14日)

- ①  トイレ注意マークのある探鳥地は、探鳥会終了時間までトイレはありませんのでご注意ください。
- ②  登山靴マークは探鳥地に急傾斜の登り坂があることを示しています。
- ③ 定例探鳥会の終了時間は鳥の出方により時間が前後しますので、目安としてください。
特に、終了時間が12:00となっている探鳥会に遠方よりご参加の方は、念のため弁当をご持参ください。
- ・持ち物：弁当(*)・水筒・雨具・帽子・タオル・名札・観察用具・筆記用具・図鑑など。
* 行事の解散時刻等により、弁当が不要な場合があります。各行事の注意事項をご確認ください。
- ・参加費：会員(むくどり会員を含む・大学生)100円、一般200円。高校生以下は無料(傷害保険求償のため、名簿の記入が必要)。
- ・万一路が発生した場合、傷害保険に加入しているほかは、応急処置以外の責任は負いかねますのでご了承ください。

*雨天の場合の判断について
「雨天中止」と明示していない探鳥会・探鳥地は、原則として集合時に決行か中止かを判断します。ただし、気象警報および雷注意報発令時は、無条件で中止します。

	開催日	探鳥地	開始～終了	集合場所	担当ボランティア
第一土曜	2月7日	矢倉海岸 *雨天中止	9:30～12:00	阪神なんば線 福駅海側	橋本正弘、杉田、藤村、あおぞら財団 連絡先：090-1025-6918
	3月7日				
第一日曜	1月4日	鉢ヶ峯 ※1月は11日。	9:15～14:00	泉北高速鉄道泉ヶ丘駅下車 センタービル噴水前	清水俊雄、横島、中辻、常石、塚田、 三枝 連絡先：072-299-1779
	2月1日				
第二土曜	3月1日	牧野 (淀川上流) ※3月は7日(土)	9:00～14:00	京阪牧野駅下車、淀川方面出口 穂谷川左岸堤防上芝生広場	平 軍二、南(茂)、高井、前田、甲田、 斎藤(健)、西脇 連絡先：090-6901-1425
第二日曜	1月10日	万博公園	9:30～15:00	現地 自然文化園入口 太陽の塔前 (大阪モノレール万博記念公園駅下車) (参加費の他に公園入場料250円が必要)	足立道成、平、稻波、卜部、有賀、廣瀬、 山口、橋本(寿)、田中(宏) 連絡先：090-1897-5292
	2月14日				
	3月14日				
第三日曜	1月11日	大泉緑地	9:30～14:00	現地花と緑の相談所前(地下鉄御堂筋線新金岡駅下車、東へ徒歩15分)	岩井 智、若林、西村、芝池、藤村 連絡先：090-4291-7711
	2月8日				
	3月8日				
第三土曜	1月17日	山田池公園	9:30～14:00	現地公園北入口駐車場(京阪本線枚方市駅下車、北4番バス乗り場より藤阪ハイツ行9:02発バスに乗り、出屋敷バス停下車)	森山春樹、浅井、稻森、堤(美)、南(茂)、 伊東 連絡先：072-825-2256
	2月21日				
第三日曜	1月18日	箕面公園 ※1月から第二日曜日	8:30～15:00	阪急箕面駅前	佐藤雅史、清原、御旅屋、中塚(忠)、 中塚(美) 連絡先：072-724-7054
	2月15日				
第四土曜	1月24日	男里川	9:30～12:00	地下鉄谷町線・堺筋線、阪急千里線 天神橋筋6丁目駅北側改札口	橋本正弘、小西(武)、吉田(學)、 中尾(嘉)、中尾(邦)、西脇 連絡先：090-1025-6918
	2月28日				
第四日曜	1月25日	くろんど園地 (1月24日のみ)	9:30～15:00	京阪交野線 私市駅前 (京阪本線枚方市駅乗換)	渡辺(晋)、平 軍二、友田、神戸、 小田原 連絡先：090-6901-1425
	2月22日				

*第一土曜日に開催している矢倉海岸定例探鳥会は、4～5月、9～12月、2～3月の年8回の開催です。

*箕面定例探鳥会は、これまで第一日曜日に開催していましたが、1月以降、第二日曜日に開催します。

*3月1日(日)、淀川寛平マラソン開催のため、3月の牧野定例探鳥会は、3月7日土曜日の開催とします。

*1月の南港野鳥園は、24日(土)、16:00集合、18:30解散です。カモをシルエットで識別、星座の観察も行います。終了後、南港野鳥園スタッフほかの皆さんと交流会を行います。交流会参加ご希望の方は、1月17日(土)までに090-2389-2743にご連絡ください。

一般探鳥会・平日探鳥会・バーディ+U50(2015年) 探鳥会に参加しよう!

探鳥会に参加するときは、フィールドマナーを守り、

①鳥の生活を脅かすことや、草花や昆虫を採集することは控えましょう。

②ゴミはすべて持ち帰りましょう。

③先導の担当者より前に出ないようにしましょう。

種別	テーマ／開催場所	開催日	集合・解散	テーマ／交通／申込み／注意事項ほか
U50+一般 自由参加	甲子園浜 スズガモ・ミサゴ	1月3日 (土)	9:00 阪神線・甲子園駅東改札口 12:00 甲子園浜 自然環境センター前	*集合場所から徒歩(30分弱)で甲子園浜に向かいます。 バス利用の方は、浜甲子園運動公園前で下車、西へ徒歩5分。 *自家用車利用の方は、9:30甲子園浜自然環境センター前集合。浜甲子園運動公園駐車場をご利用ください。
バーディ+U50 事前申込み	大阪府営蜻蛉池公園 ミコアイサ・ルリビタキ	1月12日 (月・祝)	蜻蛉池公園第二駐車場前=蜻蛉池公園バス停前 9:40 南海線・難波駅8:25発の和歌山市行急行にご乗車ください。岸和田駅8:51着。岸和田駅前からは、9:10発の道の駅愛彩ランド行の南海バスに乗換え、蜻蛉池公園(終点の二つ手前)で下車、9:33着	*詳しい参加要項は、お申込みの方にファクシミリ・電子メールで送信します。必ず期限までにお申込みください。 ファクシミリ：06-6766-0056(1/9締切り) メール：phoenicurus_auroreus@tulip.ocn.ne.jp(1/11締切り)
平日 自由参加	神戸市立森林植物園 マヒワ・ミヤマホオジロ	1月15日 (木)	9:45 神戸電鉄・北鈴蘭台駅改札口 14:00 現地・神戸市立森林植物園内	*森林植物園が運行する10:05発の無料送迎バスに乗車します。 ・神戸電鉄・北鈴蘭台駅までは、阪急・梅田駅 8:40発～新開地駅 9:15着・乗換え 9:26発(三田行準急)～北鈴蘭台駅 9:43着が便利です
一般 自由参加	馬見丘陵公園 ルリビタキ・クロジ	1月18日 (日)	9:30 近鉄田原本(たわらもと)線・池部駅改札口前広場 14:50 馬見丘陵公園館前	*JR大阪駅 8:22発(天王寺駅 8:43発)奈良行大和路快速に乗車、王寺駅 9:04着(390円)／(徒歩5分弱で近鉄田原本線に乗換え)／新王寺駅 9:16発～池部駅 9:24着(210円) ※新王寺駅(田原本線)と王寺駅(生駒線)をお間違えのないようご注意ください。 *解散後、池部駅まで徒歩(約3km、所要45分)で戻ります。なお、鶴橋・難波方面が便利な方は、馬見丘陵公園 15:05発の近鉄大阪線・五位堂駅行きのバス(280円)にご乗車ください。
植物観察会 ※自由参加ですが、予めご連絡ください。	山田池公園 木の実と木の芽	1月27日 (火)	9:00 京阪電車枚方市駅下車、北4番バス乗り場(藤阪ハイツ行9:02発バスに乗り、出屋敷バス停下車、現地山田池公園北入口駐車場9:30) 14:00 公園内の予定	*集合場所(現地北入口駐車場)は、定例会と同じです。 *持ち物：双眼鏡、あればルーペ、木の実図鑑、木の芽図鑑。弁当。 *カラーの資料を準備します。資料過不足の無駄を避けたいので、参加される方は、平宛メールまたは電話(右記)で連絡くださると幸いです。
U50+一般 自由参加	道場 里山の冬鳥	2月1日 (日)	9:00 JR福知山線「道場」駅 駅前広場 15:00	*U50(50歳以下) + 一般の方との合同の探鳥会です。
一般 自由参加	飛鳥・甘樺丘 ノスリ・カシラダカ	2月8日 (日)	9:15 近鉄南大阪線・橿原神宮前駅東口改札前 15:15 国営飛鳥歴史公園甘樺丘地区・豊浦側休憩所	*近鉄南大阪線・阿部野橋駅 8:20発～(吉野行き急行)～橿原神宮前駅 8:57着、大人片道620円。集合場所は、橿原神宮方面への中央出口ではありませんので、ご注意ください。 *解散後、橿原神宮前駅までバス(15:25発、250円、所要8分)を利用するか、徒歩(約3km、所要45分)で戻るか、オプションとします。
バーディ+U50 事前申込み	箕面公園 カワガラス・キセキレイ	2月11日 (水・祝)	9:30 阪急箕面線・箕面駅改札口 15:30	*詳しい参加要項は、お申込みの方にファクシミリ・電子メールで送信します。必ず期限までにお申込みください。 ファクシミリ：06-6766-0056(2/6締切り) メール：phoenicurus_auroreus@tulip.ocn.ne.jp(2/10締切り)
平日 自由参加	近江八幡・西の湖 チュウヒ・ミヤマガラス	2月18日 (水)	9:50 ヴォーリズグランド前(近江兄弟社学園グランド)バス停(右の①②③のいずれかでご集合ください) 14:00	①JR大阪駅 7:22発(新快速)近江八幡駅 8:28着。近江八幡駅前6番乗り場 8:45発(バス)近江兄弟社学園前8:53着、徒歩約30分。 ②JR大阪駅 7:45発(新快速)近江八幡駅 8:54着。近江八幡駅前6番乗り場 9:00発(バス)近江兄弟社学園前9:07着、徒歩約30分。 ③JR大阪駅 7:45発(新快速)近江八幡駅 8:54着。近江八幡駅前からタクシー(1,700円前後、所要20分前後)。

1月3日～2月18日)

自然と人に思いやりのある楽しい探鳥会にしましょう。

- ④名札を付けましょう。
- ⑤大声で話したり、笑ったりすることは慎みましょう。
- ⑥喫煙は休憩時と昼食時に限り、歩行中は禁煙で！ 周りの人への気遣いもわすれずに。

*雨天の場合の判断について
 「雨天中止」と明示していない探鳥会・探鳥地は、原則として集合時に決行か中止かを判断します。ただし、気象警報および雷注意報発令時は、無条件で中止します。

イベントの概要	講師／担当ボランティア
<p>* U50(50歳以下) + 一般の方との合同の探鳥会です。 阪神間に唯一残された自然の砂浜・干潟がある甲子園浜で、スズガモの群れや魚を狙うミサゴ、ウミアイサやハジロカツブリなど、水鳥を中心に観察します。 * 12時終了となりますので、昼食の持参は自由とします。</p>	駒田、山藤 ほか、U50有志 U50の活動等についてのお問い合わせは、 支部事務所 (06-6766-0055) wbsj-osaka@sun.gmobb.jpに連絡
<p>幼児・小中学生とその家族およびU50メンバーを対象にしたイベントです。小学校高学年～中学生は、単独参加も可能です。三世代の参加を大歓迎いたします。 大阪府営蜻蛉池公園は、岸和田市の中央部、緑豊かな丘陵地帯に位置しています。今回のバーディでは、公園の大池や七ツ池、蜻蛉池などで、カモのなかまを中心にしてそのようすをじっくりと観察します。ミコアイサやキンクロハジロ、ハシビロガモやマガモは、どんなふうにエサを探っているでしょう。また、大芝生広場や雑木林では、セキレイのなかまやホオジロのなかま、アトリのなかまやツグミのなかまをさがしましょう。</p>	上村賢、橋本(寿)、福島、岩井 ほか * お問合せ・連絡は左記メールアドレスにお願いします。
<p>神戸市立森林植物園は、世界の樹木を集めた、日本最大規模を誇る植物園です。 この六甲山上にある植物園に越冬のためにやってくるマヒワ・ミヤマホオジロ・キクイタダキ・ルリビタキ・トラツグミなどの冬鳥を観察しましょう。 * 神戸市立森林植物園は、水曜日が休園日です。通常の第三水曜日の開催ではありませんので、ご注意ください。</p>	松岡三紀夫、藤原、小山(朋)、川相、川嶋、八部、久下 連絡先：090-2389-2743
<p>奈良県河合町の馬見(うまみ)丘陵周辺は、国指定特別史跡の「巣山古墳」を中心に、多数の古墳が集中しています。これら古代の遺跡を包み込むように、里山を中心とした豊かな自然が広がっており、「馬見丘陵公園」として整備されています。とくに「ナガレ山古墳」の東側半分は、築造当時の姿が再現されており、墳丘の上からの眺めは格別です。最寄りの池部駅からは、約1kmの緑道が整備されています。昨年は、カシラダカやルリビタキの採餌、ノスリの飛翔のようすを間近でじっくり観察することができました。今年も期待しましょう！</p>	浅尾和己、杉本(英)、杉本(マ)、福島、岩井、上村 連絡先：090-8653-9165
<p>前回大泉緑地に続いて木の実を観察しますが、木の実は1月下旬になると鳥に食べられ少なくなっているので、春の芽吹きまで衣に包まれている木の冬芽も観察します。ウソが桜の芽を食べることはよく知られていますが、レンジャックがシダレヤナギの新芽に、マヒワがコナラ・アベマキの新芽に来ているのを見たことがある程度で、木の芽を食べる鳥の観察例は多くありません。 また、時間があれば大泉緑地で観察したロゼットの復習もします。</p>	平 軍二(090-6901-1425) Eメール g-hira@nifty.com
<p>武田尾と三田の間に位置する道場では、武庫川で水辺の鳥、里山では野山の鳥など、数多くの出会いが期待できる場所です。ほとんど平地ですが、長い距離を歩きます。寒い時期になりますので、防寒対策をしっかりしてご参加ください。</p>	井上、駒田、山藤 ほか、U50有志 U50の活動等についてのお問い合わせは、 支部事務所 (06-6766-0055) wbsj-osaka@sun.gmobb.jpに連絡
<p>奈良県明日香村の甘樫丘(あまがしのおか)は、国営飛鳥歴史公園の一角を占めており、古くは蘇我蝦夷・入鹿親子の邸宅があったといわれている丘陵です。頂上展望台からは、藤原京跡や大和三山が一望できます。麓には飛鳥川が流れ、付近には農耕地・植林地・雑木林が点在しており、いわゆる「里山」の景観が残されています。この時期には、ノスリやオオタカ、チョウゲンボウといった猛禽類、ジョウビタキやルリビタキ、ホオジロやカシラダカといった里山の鳥たちの姿を楽しむことができるほか、途中の剣池・和田池では、多くの水鳥の仲間を観察することができます。歴史に触れながら、冬の里山を彩る鳥たちの姿をさがしませんか。</p>	上村 賢、橋本(寿)、福島、岩井 連絡先：090-8653-9165
<p>幼児・小中学生とその家族およびU50メンバーを対象にしたイベントです。小学校高学年～中学生は、単独参加も可能です。三世代の参加を大歓迎いたします。 滝と紅葉で有名な箕面公園を歩きます。真冬の時期には、ルリビタキやジョウビタキ、アオジやクロジなどの冬鳥がハイキングコースに顔を出すとともに、カワガラスやミソサザイなども山の高いところから低地に降りてきます。今回は、どんな鳥と会えるでしょうか。 あわせて、厳しい寒さに耐えてたくましく生きている生き物についても目を向けています。どんな生き物が見つかるでしょうか。</p>	上村 賢、橋本(寿)、福島、岩井 * お問合せ・連絡は左記メールアドレスにお願いします。
<p>安土城の北に広がる琵琶湖最大の内湖「西の湖(にしのうみ)」とその周辺でチュウヒ・ノスリ・チョウゲンボウなどの猛禽類、カモのなかま、ミヤマガラス・タゲリ・ベニマシコなどの冬鳥をじっくり観察します。 運がよければハイイロチュウヒのオスに会えるかもしれません！</p>	松岡三紀夫、藤原、小山(朋)、川相、川嶋、八部、久下 連絡先：090-2389-2743

次号236号（3月号）予告

「里山の自然と野鳥」

最も身近にあって、人が手を加えることで維持されてきた里山の自然。里山のどこか懐かしい風景の中で会える鳥たちを紹介します。

大阪の里山で撮影された野鳥や風景の写真を募集します。また、里山での鳥たちとの出会いなどに関する投稿も募集します。（1月末〆切り）

ホームページ連携企画 「野鳥クイズ」 第9回

今回は問題がちょっと難しかったようです。正解はオオタカとヨシガモでした。応募は10名ありましたが正解者は3名でした。間違いの例として、サシバ、コガモ、オシドリの名前があがっていました。

抽選の結果、栗原正大さん・藤岡大地さんに景品をお送りします。

むくどり会員（1年間限定のお試し会員）募集中

ぜひ、お友達やお知り合いの方をお誘いください。
大切な方にむくどり会員をプレゼントするというのも大歓迎。
自然や野鳥を愛するなかまをもっと増やそう！

年会費：1,000円（入会金不要）

期 間：1年間のみ限定

特 典：探鳥会への参加費100円

（非会員200円）

機関紙「むくどり通信」年6回配布

申込方法：郵便振替【00950-0-90551】振込用紙に住所・氏名・年齢・電話番号を記入のこと。

※会員をプレゼントしようという場合はその旨記載。

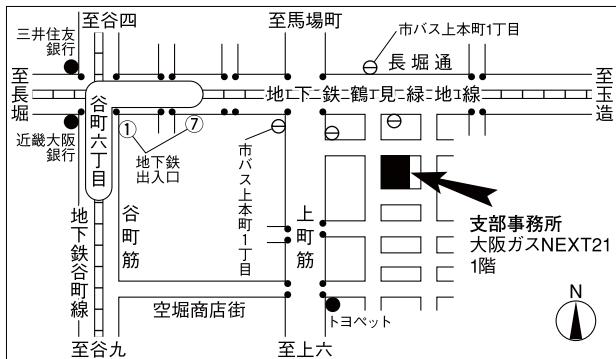
※入会は探鳥会でも受け付けています。



鳥を通して自然に親しみ、自然を守る運動を広げよう。
自然を守るなかまは全国に約5万人。会員の皆さんのが地域の活動を支えています。
鳥を愛し、自然を愛するなかまをもっと増やそう！

住所変更等の連絡のお願い

転居等でむくどり通信が届かず事務所に戻ってくるケースがよくあります。住所変更されたときは、本部だけでなく支部事務所にも一報入れていただけるようよろしくお願いします。



編集後記

◆鳥のライリストは誰でも付けていると思うが、1年間に見た鳥のリストを付けるのも面白い。新年は真っ白なページにその年初観察の鳥を記録していく。普段馴染みの鳥にも「今年もよろしく」と挨拶しながら新たな鳥見年がスタートする。今年最初に出会う鳥は誰だろう？（もず）

●鳥獣人物戯画に鳥が何種いるだろうか、探してみた。甲巻にはトリ、フクロウ。乙巻でタカ3羽、ニワトリ6羽、ヒヨコ2羽、オオワシ3羽でした。丙、丁は見当たらず。鳥は昔から人間と生活を共にしていたようです。（キ印）

★実家の本棚を整理して出てきた下村兼史さんの「カメラ野鳥記」、今でも色あせない生態が描かれた文章に、つい引き込まれてしまった。（H.T.）

◎マイフィールドで、初めてオオタカの巣（♀が抱卵中）を見つけた時のことが、昨日のことのように思い出される。オオタカの行動や周辺の地形からここではという場所を予想して、森に入る。そうして自宅周辺でも複数のつがいの巣を発見することができた。オオタカは猛禽類を観察する楽しさと難しさを教えてくれたタカでもある。今号の特集に、編集者のオオタカへの熱い思いも感じ取っていただければと思う。（HN）

○お詫びと訂正

むくどり通信234号に以下の誤りがありました。訂正するとともにお詫び申し上げます。

・P4 上から4番目のA「大図鑑」にあたる。の次の文章。
発行は古いが図鑑と呼ばれる…

⇒発行は古いが「清棲（きよす）図鑑」と呼ばれる…

・P7で日本初のフィールドガイドとして紹介しました「野鳥便覧」について、大野正男様より、中西悟堂の「野鳥ガイド」の方がタッチの差で早い（野鳥便覧がS13年3月23日発行、野鳥ガイドが同3月20日発行）とのお便りを頂戴しました。「3日違いで」2つの図鑑が出版されていたという事実を知ることになりました。貴重なご指摘ありがとうございました。

大阪支部のなかま
正会員+むくどり会員
1,991人
(2014年12月1日現在)

●次回発行3月1日／原稿〆切1月31日

日本野鳥の会 大阪支部報 むくどり通信 No.235(2015.1)

日本野鳥の会 大阪支部

〒543-0011 大阪市天王寺区清水谷町6-16 NEXT21・1F

TEL. 06-6766-0055

開館日時：毎週火・金：AM10時～PM6時
(ただし祝日は休館)

FAX. 06-6766-0056 (24時間受付)

e-mail: wbsj-osaka@sun.gmobb.jp (大阪支部事務所)
mukudori-osaka@sun.gmobb.jp (広報グループ)

URL: <http://sun.gmobb.jp/wbsj-osaka/>

振替 00950-0-90551

印刷所 光栄堂印刷株式会社
〒531-0076 大阪市北区大淀中3-18-41

※記事、写真、イラスト等の無断転載・複製を禁ず。

11月17日、高槻市の小学校でオオミズナギドリが保護されました。一次収容した施設の知人によると、外傷はなく骨折している様子もないとのことでした。

オオミズナギドリのような翼の細長い鳥は飛び立つのが苦手で、助走したり樹上から飛び降りたりして飛び立つ例が多く、何らかの事故で地上に降りた場合、場所によっては飛び立てなくなることがあります。

また、翼の長い鳥のリハビリは場所の確保が難しく、飛翔筋が衰える前にできるだけ早く放鳥する必要があります。翼開長が1mを越える鳥のリハビリはレスキュー事務所では難しいため、給餌後できるだけ早く広い場所で放すようにお願いしました。

ところがその夜再び電話があり、淀川で放したがすぐに陸に戻って座り込んだ、とのことでした。仕方がないので次の日に事務所に連れてきてもらう事にしました。

連れてこられた鳥は外傷はありませんでしたが、あまり暴れることもなく、少し弱っている印象でした。とりあえずワカサギを10匹ほど強制給餌して様子を見ることにしました。餌を吐き戻さなかったので、2時間後に再び強制給餌。これを三度ほど繰り返してその日は終了しました。

翌朝、様子を見に行くと、翼をバタつかせて暴れる

村濱史郎 (NPO法人日本バードレスキュー協会)

など、元気を取り戻していました。そこで、ワカサギを12匹強制給餌して、貝塚市の二色浜に連れて行き、再びワカサギを5匹強制給餌して海岸に放しました。波打ち際を羽ばたきながら助走して無事飛び立ち、50mほど離れたところに着水した後、徐々に沖に向かって泳いで行って姿が見えなくなりました。

御蔵島の調査では「成鳥は平均で11月7日に最後の給餌をして巣を離れ、雛はその後10日ほどして巣立つ」とあります。このことから、保護された個体は巣立ち直後の幼鳥で、餌が採れず衰弱したものと考えられました。その後レスキュー事務所にはオオミズナギドリの保護に関わる相談が3件ありました。どうやら11月17日はオオミズナギドリが降ってくる気象上の特異日だったようです(笑)。



オオミズナギドリ (撮影: 高田みちよ氏)

日本バードレスキュー協会・日本野鳥の会ひょうご・日本野鳥の会大阪支部共催

第8回 鳥類学講座 「キジバトの繁殖戦略」

講師 滋賀県立琵琶湖博物館総括学芸員 亀田 佳代子氏

日 時：2015年3月7日（土）13:00～16:00

場 所：大阪南港野鳥園 研修室

内 容：多くの動物では、子孫を残す方法として、小さな卵をたくさん産んでそのうちの一部が生き残ればよいという戦略か、大きな卵を一つか二つ産んで大事に育てるという戦略で子育てをします。それにもかかわらず、ハトはこのどちらとも矛盾する卵の産み方をします。たとえばキジバトは、体のわりには小さな卵を二つだけ産んでヒナを育てます。なぜ、キジバトは、1回に2個しか卵を産まないのでしょうか？今回の講座では、キジバトの子育ての謎にせまりたいと思います。

参加費：1,000円 高校生以下無料（参加費は当日集めます）

申 込：不要



鳥信 こんな鳥観たよ!!

■ 2014年10月～12月(日本鳥類目録改訂第7版分類順)

- ◎ヒシクイ 11/21 枚方市招堤 1羽 周囲が住宅の田圃で、盛んに落ち穂を啄ばんでいた。結構人が通るのに無警戒。群れから外れたのか。(村上 豊) **写真**
- ◎ヒシクイ 11/26 枚方市招堤 1羽 田んぼケリを探していたところ、マガノのような見慣れない鳥が1羽。帰って図鑑を見たところ「ヒシクイ」。(高木幹雄)
- ◎ヒシクイ 12/5 枚方市招堤 1羽 11月初旬から淀川の枚方地区から樟葉地区辺りで見られていたヒシクイが、内陸部の招堤の田んぼでエサ取りをしていることが分かりました。午前中11時頃まで田んぼにいて、それから淀川の方へ飛んでいくようです。(松下孝雄)
- ※大阪府内の近年の記録はなく、非常に貴重。越冬を期待。
- ◎コハクチョウ 11/21 服部緑地 新宮池 1羽 (辻本 恵) **写真**
- ◎ツクシガモ 12/6 大和川阪堺線鉄橋付近 1羽 (野村浩作)
- ◎シノリガモ 10/17 枚方市 淀川 ♂1羽 天の川の河口近くの淀川を泳ぐ。写真 西川信吾氏提供
- ◎アカハジロ 11/18～ 住之江公園 ♂1羽 今冬もプールに飛来との情報が届く。
- ◎ホオジロガモ 11/14 枚方市最早池 ♂1羽 (斎藤 博) **写真**
- ◎カワアイサ 12/6 大和川阪堺線鉄橋付近 ♀1羽 (野村浩作)
- ◎カンムリカツブリ 11/8～ 大阪城公園 1羽越冬中 西外堀で越冬中。2000年10月29日に東外堀で1羽が見られたのみ。今回で2回目、14年ぶりの記録。(元山裕康)
- ◎ハジロカツブリ 11/19 枚方市長尾大池 5～6羽 (斎藤 博) **写真**
- ◎オオミズナギドリの保護 11月オオミズナギドリが大阪府下に迷い込み下記5羽が保護され放鳥されました。私が引き取りに行き淀川で放鳥したもの、動物病院に持ち込まれ、強制給餌の上放鳥されたものまた、給餌の方法をアドバイスして放鳥されたものがあります。
- 11/7 東住吉区湯里 1羽、11/10 羽曳野市布上 1羽
11/10 東大阪市日下町 1羽、11/14 東大阪市池島 1羽
11/19 守口市八雲中 1羽
オオミズナギドリは夏鳥として日本に渡ってきて冠島(舞鶴市)などで繁殖し秋に南に帰ります。このとき幼鳥はしばしば内陸部で保護されます。
(橋本正弘：大阪府鳥獣専門員)
- ◎コウノトリ 10/30 岸和田市久米田池 1羽 久米田池愛鳥会のメンバーで支部会員の豊嶋さんと泉北野鳥の会の山口さんが池の上空を旋回するコウノトリに遭遇。上空を15分ほど旋回して北東方向へ飛去。足環のない個体。山口福夫氏写真提供 (山田悦三)
- ◎ヘラサギ 11/24～ 久米田池 若鳥1羽 2012/10から2013/1まで久米田池に滞在したクロツラヘラサギに続き、珍しいヘラサギがやって来ました。私の知る限り久米田池でのヘラサギは初めて。(山田悦三) **写真** 11/26撮影



- ◎タゲリ 10/25 久米田池 5羽 11/4には4羽。何れも短期間の滞在でした。(山田悦三)
- ◎タゲリ 10/27 河南町寛弘寺 (藤崎 裕) **写真**
- ◎ミヤコドリ 10/31～ 泉南市男里川河口 4羽 (中田 亘)
- ◎ミヤコドリ 11/16 泉南市男里川河口 3羽 波打ち際でアサリを捕食。(中村 進) **写真**
- ◎ミヤコドリ 11/30 堺市堺浜 2羽 (野村浩作)
※男里川の3羽のうち2羽が移動したものか?
- ◎セイタカシギ 10/26 羽曳野市郡戸 細池 2羽 (上村 賢)
- ◎アオシギ 11/16 堺市南区 堺自然ふれあいの森敷地内 法道寺川 1羽 昨シーズンに続き飛来。(三枝茉莉)
- ◎ヨーロッパトウネン 12/2～ 久米田池 1羽 今冬で3シーズン連続確認。(山田悦三)
- ◎オジロトウネン 10/30 久米田池 2羽 (山田悦三)
- ◎オオコノハズク 10/31 豊中市長興寺南 高校の体育館前で保護される。窓ガラスに衝突して脳震盪を起こしたものと考えられる。衰弱していたので、強制給餌。ケージ内で自力採餌が見られるなど、回復し、11/3に放鳥。(日本バードレスキー協会)
- ◎ハシブトガラス 10/28 吹田市万博公園 カマキリの卵塊を食べていた。(鳥ガール大阪) **写真**
- ◎ハシブトガラス 12/1 大泉緑地 ユリノキの実に5～6羽群がる。ユリノキの実を食べるには初めて観察した。(平 軍二他、植物観察会)
- ◎ショウドウツバメ 11/9 堺市北区野遠町北池 5、6羽 時期的に目を疑いましたが、雨の中レンズを拭きながらなんとか撮影。(布村和彦) **写真**
※11月の記録は珍しい
- ◎ツバメ 12/6 堺市北区野遠町北池 1羽 越冬するのでしょうか (布村和彦) **写真**
- ◎ノゴマ 10/20頃～28現在 枚方市淀川河川敷牧野 ♂1羽 (松下孝雄) **写真**
- ◎エゾビタキ 10/24 堺市光明池緑道 1羽 (横島 彪)
- ◎コサメビタキ 12/8 大阪城公園 1羽越冬中 豊國神社裏の水場周辺で見られている。(元山裕康)
- ◎オジロビタキ 11/29～ 大阪城公園 1羽越冬中 西の丸庭園で見られている。(元山裕康)
- ◎スズメ 10/18 堺市大泉緑地 アキニレのうろの拡張作業を繰り返す番のスズメを観察。(浅野宏幸) **写真**

府外の記録

- ◎ウミスズメ 11/24 和歌山市北港海つり公園 3羽 沖合を3羽飛んでいましたが、その内1羽が釣り人の蔵くオキアミにつられて近寄ってきました。(中田 亘) **写真**

身近な場所で観察された鳥の情報をお寄せください

「鳥信—こんな鳥観たよ!!」コーナーへの投稿を募集しています。大阪府内を中心にはいますが、府外での観察記録でも構いません。珍しい鳥の情報に偏らず、普通種の行動などの観察等の投稿もお待ちしています。珍しい鳥の記録の場合は、種の判定識別に有効ですので写真を添付いただけすると助かります。

送り先：「広報グループむくどり通信編集担当」宛
(e-mailの場合はmukudori-osaka@sun.gmobb.jp)

いただいた情報はできる限り「むくどり通信」に掲載するよう努めますが、紙面の関係で掲載できない場合もあることを予めご了解ください。また画像は支部のホームページの野鳥図鑑にも利用させていただく場合がありますので、掲載不可の写真を投稿される場合は「HP掲載不可」と添えてください。なお、サイズ縮小やトリミング等は広報Gに一任ください。



①ホオジロガモ♂ ②ハジロカイツブリ冬羽 ③ウミスズメ（和歌山市） ④ヘラサギ
 ⑤ショウドウツバメ ⑥ツバメ ⑦ノゴマ♂ ⑧ハシブトガラス ⑨コハクチョウ ⑩スズメ
 ⑪タゲリ ⑫ヒシクイ ⑬ミヤコドリ

